

て、池新田高に合った規律を守ることの大切さや自由を多く与える指導を心がけました。前年よりも結果を残す事ができました。しかし、生徒の向上心の差に大きな変化がでてきました。好きなことには一生懸命で日常生活に全力で取り組める生徒と起きるようになつたが、嫌いなことや手を抜いてしまう生徒に二極化してしまっています。これから私の課題は、色々な事柄に一生懸命出来る生徒を、より向上心を持つて自分で考え行動できる生徒にする事と、嫌いな事にも一生懸命に取り組める生徒を育てられるように先輩教師と協力し、また生徒の心に火をつけられるような教師を目指します。「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない。」という言葉を胸に、私自身が向上心と熱い情熱を持ち生徒と接し続ける教師になれるよう努力していきます。

特別支援学校の教員になつて



浜松特別支援学校

河西 祐治（平9卒）

大学卒業後、私は高等学校では非常勤講師として、特別支援学校では臨時講師として様々な学校を経験しました。現在は静岡県立浜松特別支援学校に勤務しています。

校では、常勤講師はもちろん、非常勤講師としての採用も少なく、勤務すること自体が厳しい状況でした。毎年講師を続けて行くうちに、知り合いの先輩教師の方々にご指導を頂くことで、非常勤講師を続けて行くことが出来ました。非常勤講師であることから経済的にも厳しい思いもしました。

講師にこだわっていたのは、何としても学校の先生になりたかったからです。自分は、年齢を取っているだけに、県教育委員会より教員採用合格通知を受け取った時は、天にも昇る心地でした。

採用先は「特別支援学校」。校種云々と伝えられても教育関係に無知な私は、その合格に一憂した次第です。特に「特別支援学校」についての指導法も大した経験もなく無知に等しい私はです。

それでも、生徒達の晴れの入学式から日を増すごとに、沢山の生徒との出会いも始まり、初めての時こそ、彼等・彼女等との接触に戸惑いをしたもの、時間の経過と共に段々と心の疎通を感じて来ました。

様々な障害の特性を持つた生徒達が、どんなに一生懸命、また、明るく、自分の主張を訴えようとしているか、その努力している姿に、私は深い感動を覚えました。

「人は、必要あつて、この世に生きる」と思つたことはありません。運営する学校に勤務しています。

授業づくりに試行錯誤を繰り返し乍ら、この生徒達と共に一層の真の心を通い求めて行く過程を大事にし、生徒達の大きな成長を期待する」と共に、我が身を惜しむことなく、強く努力することを決心しました。

長い道のりでありましたが、合格がゴールではなく、教師としてのスタートだと思っています。これからも学び続けること、周りの人に支えられることに感謝する姿勢を忘れず、学んだことを生徒に返せるよう指導・支援に生かしていきたいと思います。人よりも多くの経験してきたことは財産だと思っています。その財産をこれからも増やして行きながら、生徒と共に成長し続ける、そんな教師になりたいと思います。

中学校の教員になつて



菊川市立菊川西中学校

鈴木瑛志（平20卒）

私は走ることが大好きです。走ることが大好きになったのは、中学時代の恩師との出会いでした。私は陸上競技部の長距離に所属し、毎日練習に取り組んでいました。しかし、どうしても記録が伸びず悩んだ時期がありました。そんなとき、顧問の先生は私の小さな変化を見つけ、認めた。褒められることで辛い練習にも耐え、その結果、記録を伸ばすことができました。私の能力を認め引き出してくれた先生との出会いにより、「自分もあの先生のようになりたい。」と思い、教師を目指しました。顧問の先生の勧めもあり、県内屈指の強豪校、藤枝明誠高等学校への進学を決めました。

高校時代は、仲間とともに全国高校駅伝出場を目指し、日々練習に取り組みました。キャプテンを務めた三年時には、県高校駅伝で優勝を果たし、目標であった全国大会に出場することができました。そして、高校の監督の母校でもあり、教員志望であつた私は、迷うことなく日本体育大学への進学を決めました。

大学時代には、駅伝部に所属し、全国から集まつた仲間と共に練習や寮生活を通して箱根駅伝出場を目指しました。怪我が多かつたこともあり、出場はできませんでしたが、四年間の大学生活は『走る』ということに正面から向き合い、学び、考へることができた期間でもありました。

大学を卒業してからは、特別支援学校の講師を勤め、本年度から新規採用教員として菊川市立菊川西中学校の保健体育の教諭として勤務しています。授業では、子どもたちが体を動かす楽しさを心から感じ、課題を克服できたときの喜びを多く経験できるよう心掛けています。また、運動が苦手な生徒でも、自身の成長に気付けるよう、ちょっととした変化